

# 所 沢 市 平和推進事業のまとめ

平成 2 5 年度

経営企画部企画総務課

## 所沢市平和都市宣言

武蔵野の緑豊かな自然のなかで、やすらぎに満ち、健康で生き生きとした日々を送ることが、私たち市民共通の願いです。

私たちは、国是の非核三原則を厳守し、戦争という過ちを繰り返さないことを願うとともに、限りある資源を大切にし、かけがえのない地球環境を守り、平和な世界が確立されることを強く望みます。

所沢市民は、基地全面返還を求め、未来に向かって平和な社会を築くことを誓い、ここに平和都市を宣言します。

平成2年6月22日議決、同年7月1日告示

## 目 次

広島平和記念式典参加事業	1
所沢市平和大使「広島平和記念式典参加」感想文	6
所沢市平和を語る会（語り部派遣事業）	14
所沢市平和祈念資料展	20
資料編	22
所沢市平和推進事業の歩み	23
広島市旧庁舎被爆敷石について	24



広島平和記念公園・原爆死没者慰霊碑

# 広島平和記念式典参加事業



原爆ドーム  
(広島平和記念公園内)

## 《広島平和記念式典参加事業概要》

【 期間 】平成25年8月5日(月)～ 6日(火)

【参加者】市内在住の大学生1名、高校生1名、中学生3名  
市議会代表2名、事務局2名  
計9名

【 概要 】毎年8月6日に執り行われる「広島市原爆死没者慰霊式並びに平和祈念式(広島平和記念式典)」に参加し、原爆死没者を追悼し、世界の恒久平和を願うものです。

さらに、広島市内の被爆施設や資料館への見学も行い、戦争の悲惨さや平和の尊さを実感する機会となっています。

市民代表の方が一緒に参加される現在の形になって今回で23回目となります。

また、平成19年度からは、市民代表者の対象者を中学生から大学生までの方としています。これは、戦後70年近くが経過し、唯一の被爆国であることを風化させないためにも、将来を担う若い世代の方が被爆地である広島に赴いて式典に参加し、実際に見て触れることで、原爆死没者への追悼や戦争の悲惨さ、平和の尊さを再認識していただくためです。

## 行程

### 8月5日(月)

所沢市平和大使(市民代表)5名と市議会議員を含む参加者一行は、所沢駅で出発式を行い、新幹線にて広島へと向かった。

広島市到着後、平和大使らは、宿泊地近くの袋町小学校平和資料館を見学した。その後、平和記念公園を訪れ、原爆慰霊碑に市及び市議会の代表として生花を捧げ、原爆死没者の冥福を祈った。そして、平和記念資料館、原爆の子の像、原爆ドーム、被爆爆心地(島外科)の見学を実施し、初日の行程を終えた。

- 6 : 3 0 所沢駅集合
- 1 2 : 3 5 広島駅到着(新幹線にて)
- 1 5 : 1 0 平和記念公園へ  
(献花、平和記念資料館や原爆ドーム等の見学)

### 8月6日(火)

式典当日は、早朝に宿泊場所を出発し、公園到着後、原爆死没者慰霊碑に献花、原爆死没者への慰霊を行うとともに、世界の恒久平和を願い、祈りを捧げた。

午前8時から「広島市原爆死没者慰霊式並びに平和祈念式」が開式され、原爆死没者の名簿の奉納、代表による献花の後、原爆投下時刻の午前8時15分、平和の鐘を合図に参列者全員で黙とうを行った。

次に広島市長による平和宣言、こども代表の誓いのことばと続き、安倍首相、国際連合事務総長(代理)などから挨拶があった。最後に会場では「ひろしま平和の歌」を合唱し、午前8時45分に閉会となった。

式典終了後、休憩をとり、帰路についた。

- 7 : 1 0 平和記念公園へ
- 8 : 0 0 広島市原爆死没者慰霊式並びに平和祈念式開式
- 1 2 : 3 7 広島駅発(新幹線にて)
- 1 7 : 5 5 所沢駅着(解散)

なお、6ページから平和大使の皆さんの感想文を掲載させていただきました。



平和大使委嘱式



慰霊碑に献花



原爆ドームの前にて



「原爆の子の像」にて千羽鶴の奉納



式典の様子





## 平和大使感想文

(順不同)

平和推進事業を終えて

大川 暉人(大学3年生)

今回、広島に行き、最初に感じたことは、“雰囲気が違う”ということだった。

実は広島には中学時代に修学旅行で1度行っており、今回の行程と同様に、平和記念資料館の見学や袋町小学校の資料館の見学を行い、それ以外に被曝者の方から直接お話を伺うこともできた。しかしその時は12月であり、平和式典が行われている時期ではなかった。また、当時の私は、過去の戦争や原爆被害に関する知識が薄く、目の前の資料の壮絶さに驚いていた。驚きながらも私は、原爆被害の凄惨さを理解し、夏に行われる平和記念式典に1度参列したいと考えた。

その考えは、今年実現した。8月5日に広島入りし、資料館の見学を行った際には、私たちと同じ、自治体の代表の学生や、各国の方々がいらしていた。また、事前準備をしていた役員の方々を見ると、いよいよ式典に参加するという実感がわいた。

8月6日、式典当日。宿舎から会場の平和記念公園に向かう道の雰囲気が前日とはまるで違ったように感じた。街をあげての追悼を行っているように感じた。

午前8時15分、黙祷。5万人といわれる参列者が一斉に行った。

広島市の松井市長は、平和宣言の中で核兵器を「絶対悪」とし、核廃絶と平和な世界の実現を訴え、広島の小中学生による平和への誓いの中で、「平和とは、わたしたち自らが作り出すもの」という言葉があった。

今までテレビを通してしか見ることのできなかつた式典に参加し、平和に関する認識を再考することができた。

広島と長崎に原爆が投下されて68年。現在、被曝された方や、戦争を経験された方の高齢化が進み、戦争や原爆の歴史が風化されるのではないかと懸念がある。これからの社会を担う私たちが、歴史を理解し、後世に語り継ぐ必要があるように感じた。歴史を風化させないためにも、原爆が投下された日、終戦記念日の日には平和について考える必要があるのではないかと感じた。

改めて、日本は唯一の被爆国として、核廃絶を主張すべきと感じた。チェルノブイリの原発事故や、東日本大震災の原発事故により、核廃絶の動きは出ているが、現実に進んでいるとは言い難い。

「安らかに眠ってください、過ちは繰り返しませぬから」 2度と核兵器による被害、そして戦争を起こさないためにも、1人1人の平和への理解が必要なのだと感じた。

最後に、今回の事業に参加させていただいた所沢市にとっても感謝したい。学生のうちにこのような経験をさせていただいたことは今後の人生の考え方の参考になると感じました。

本当にありがとうございます。

水落 毬梨（高校2年生）

私は平成25年度所沢市の平和大使として広島へ行きました。

初日は、袋町小学校資料館へ見学に行き、原爆のおそろしさを身を持って感じました。

壁面に残された文字から当時の街の悲劇さ、そしてたくさんの人の伝言により被害が多かったことが分かりました。

広島平和記念資料館では、8時15分に止まった時計やコンクリートに座っていた人のあとがコンクリートに黒く形がくっきり残っているのに衝撃を受けました。

世界で初めて広島に投下された原子爆弾は、今日にいたるまで被爆した人々を苦しめ続けている非人道的な兵器であり産物であったことを忘れてはいけないと思いました。

広島は一発の爆弾によって跡形もないまでに破壊されたが、現在こうして緑豊かな平和になったのは、人民全体の平和に対しての思いからここまで平和で豊かな広島に戻れたのだと感じました。

袋町小学校や、広島平和記念資料館から核兵器の威力そして被爆により多くの方が発熱、はきけ、下痢、出血、脱毛などの症状をおこし、急性障害の後に発症される後障害としてケロイド、白血病、ガンなどの病気で被爆者を苦しめ、被爆した人は差別を受けました。原爆のせいで多くの人の人権が一瞬にしてうばわれてしまいました。私は二度と同じようなことが世界中で起こってほしくはありません。原爆は、自由、権利、幸福、大切なものを失うだけで、いいことなんて一つもないのです。

広島に投下された原爆の悲惨が同じ過ちを脅かさないことを宣言し、核兵器をなくしていかなければいけないと思います。

私は、今回所沢市の平和大使として参加させて頂いたことに感謝しています。

今回の体験を通して、私たち世代が語り受け継ぎ、忘れてはならないことだと思いました。

谷富 凧沙（中学2年生）

広島駅を出て広島の街を見たとき、私は広島がとても発展していることに驚きました。

私たちの住んでいる所沢よりもずっと発展しているように見える広島市は、68年前にすべてを破壊しつくされた場所とは思えないほどでした。

1日目、広島に着いて最初に見た袋町小学校の壁には、まだ当時の人々が書いた伝言が残っていたり、伝言の書いてある壁の写真が貼ってあったりして、ここに書かれている人のほとんどは死んでしまったか見つからなかったんだろうなと思うと、藁にもすがる思いで家族や友達などの大切な人の名前を書いたのであろう人たちが本当にかわいそうで、涙が出そうになりました。

広島に原爆が落とされた8月6日の午前8時15分。平和記念資料館には、ちょうどその時間で止まってしまった、二度と動くことのない時計がありました。時計だけでなく、広島で生きていた人の生活も、幸せも、楽しみも、喜びも、何もかもがそこで止まってしまいました。そして、たくさんの命が、その時間ですべて止まったまま、消えてしまいました。

自分がもしそんなひどいことになってしまったらと思うと、考えるだけでもぞっとしました。いままで楽しいと思ったことも、たくさんの思い出も、何もかもすべて一瞬でなくなってしまうとしたら。そして、大切な人にも二度と会えなくなってしまうとしたら。

今までそんなことを真面目に考えたことのなかった私には、今回広島で見聞きしたことは、ショックなことばかりでした。私にとっての戦争とは、テレビの中の世界のことと同じような存在でした。核兵器は戦争ほど遠くには感じないけれど、それでも現実的には思えず、「どうせ自分には関係ない」とずっと思っていました。

だから今回、広島に行っているいろいろなものを見聞きできたことは、私にとって、いろいろなことを考え直す、大きなきっかけになったと思います。当たり前の生活を、当たり前だと思わないこと。いまの日本は平和だけれど、戦争でなくても地震などの震災ですべてを失うかもしれない。実際に2011年に起こった東日本大震災でも、たくさんの人が家族や友達を失い、震災前の生活に未だ戻れていない人もいます。そして自分が全てを失うのは、もしかしたら明日かもしれない。とても怖いことだけれど、そういうことをしっかり考えて、自分の生活や考えを見直し、今の幸せを大切にすることが大切なんだな、と思いました。

震災はなくすことができないけれど、戦争は世界中の人々が、ただ『平和』だけを願えばなくすことができると思います。戦争は悲劇しか生まない、戦争



は絶対にしてはいけない。すべての人間がただそれだけを願うことが、戦争をなくせる唯一の方法だと思います。

いままで遠くに感じていた戦争を、初めて身近に感じることができ、核も戦争もない世界をこれまでよりずっと強く感じることもできた、短いけれど、とても大きな2日間でした。

No more Hiroshima

小林 大輝（中学2年生）

大きな原爆ドーム、街のいたるところにある被爆石、爆心地を示す小さな看板。そして、平和記念資料館。あらゆるものが、静かに、原爆の恐ろしさを示していた。資料館で目にした、被爆直後の人々の写真や、焼け野原になった街の模型。全てが、核兵器廃絶と平和を願うメッセージを発していた。原爆が炸裂したときは奇跡的に生き残った。でも放射線による後遺症により苦しみ、亡くなった、そんな人の記録もあった。そこには、“現実”が記されていた。資料館には、恐ろしくて見てられないような写真や展示が、たくさんある。でもそれから、目をそらしていけない。それらは平和を願う世界へのメッセージを発信する、唯一のメッセンジャーなのだから。そのメッセンジャーは、私に強いメッセージを届けてくれた。...No more Hiroshima...

平和記念式典の朝。平和記念公園は、まるで違う世界のようにだった。式典のはじめ、原爆により亡くなった方々の名前を記した死没者名簿が奉納された。そして、8時15分。平和の鐘が鳴り響く。68年前のこの時間、原子爆弾が、広島に投下された。広島は破壊された。10万人を超える人々が一瞬で亡くなった。家族や知り合いとばらばらになった人がいた。黒い雨で被爆した人がいた。放射線の影響で、その後何日も、あるいは何年も苦しみ、亡くなった人もいた。そして、被爆したことで今もなお後遺症に苦しんでいる方がいる。もっと、世界中の人に知ってほしい。そう感じた。ヒロシマを訪れ、“原爆が投下された”という現実を。日本だけが持つその歴史は、核兵器を持ち続けることがどんなに恐ろしいことか、核兵器をなくすことがどんなに必要なことかを語ってくれるはずだ。

今年の平和宣言では、核兵器のことを「絶対悪」と呼んでいた。そして、「威

嚇によって国の安全を守り続けることができると思っていますか。」と呼びかけていた。私は、実際に他国の方々、特に核兵器保有国のできるだけ多くの方々にヒロシマを訪れてもらい、原爆投下という現実と核兵器の恐ろしさを再確認してほしいと思う。

私は以前から核はなくさなければならぬ物だと思ってきたが、広島を訪れる前は、まだ核の本当の恐ろしさを知らなかったように今は思う。現実の悲惨さを。また戦争という過ちの残した傷の深さを。でもそれをヒロシマで目の当たりにすることで私の平和への想いは変わった。だからとにかくヒロシマで一人でも多くの方に、原爆投下という現実から平和の大切さを学び、未来に向けて鳴る平和の鐘の音を一度聴いてほしい。

平和記念式典は、「ひろしま平和の歌」の合唱で終わる。平和への想いが詰まった歌だ。ここに3番の歌詞を引用したい。

風清く かがやくところ  
国のはて 世界の友に  
おお熱く 想いかよえと  
鐘は鳴る 平和の鐘に  
いまわれら 手をさし伸べて  
その睦み ここに歌わん

国境を越えて、世界の平和を実現していくことが、21世紀を生きる私たちの使命である。

核兵器は必要ない。それはヒロシマが示してくれている。そして、世界の人々と“想いかよえ”た日、戦争と核兵器の脅威がなくなった日、平和な世界がやってきた日に、平和記念公園の「平和の鐘」が、平和がやってきたことを世界に示すために鳴る日を私たちは待ち望んでいる。だからまずは同じ想いを持った仲間を増やすことから一歩ずつ行動していきたいと思う。全てはこの言葉のために。

No more Hiroshima

安藤 駿佑（中学1年生）

昭和20年8月6日8時15分、広島に原爆が投下されました。

僕は、広島に着き原爆が落とされたなんて分からないほど普通の町でした。まず、袋町小学校を見学しました。階段の横に書かれた伝言を見て、必死に家族を探す様子が分かりました。その後平和記念公園に行き、献花をしました。たくさんの千羽鶴もあり、感慨深いものがありました。

平和記念公園の近くにある平和記念資料館も見学しました。そこには、原子爆弾の模型があって、こんなに小さな爆弾が広島を一瞬にして焼け野原にしたとは考えられないほど、爆弾が小さかったです。他にも、原爆に落とされた真っ黒こげのお弁当箱も展示されていて、原爆の恐ろしさが分かりました。

その後、テレビでしか見た事ない原爆ドームに行きました。テレビで見ている原爆ドームとは違い、ものすごく大きかったです。

2日目は、広島平和記念式典に参加しました。テレビでしか平和記念式典を見た事ありませんでした。そこでは、小学生の話、広島市長、外国人の話もあって世界中の人たちが、感心を寄せた一瞬でした。

僕は、この式典を通じ戦争の怖さと原爆の恐ろしさを知り、2度と起きてはいけない事だと、改めて感じました。僕たち若者がこれからの平和のためにこの事を残していかなければならないと強く思いました。



# 所沢市平和を語る会 (語り部派遣事業)



## 《平和を語る会（語り部派遣事業）実施概要》

### 【 概要 】

被爆体験者・戦争体験者の語り部による講話を市民の方に対して行い、平和の尊さ、命の大切さを訴えます。

市の施設で実施する場合は、市民の方を対象とし、小・中学校への派遣の場合は、児童・生徒を対象とした事業で、平和学習の一環として実施されています。

### 【 実施日 】

平成25年 8月17日 男女共同参画推進センターふらっと  
語り部：中島寿々江さん

9月18日 小手指小学校 6年生  
語り部：岡光静乃さん

10月17日 北中小学校 3・6年生  
語り部：杉本孝一郎さん

10月25日 明峰小学校 6年生  
語り部：中島寿々江さん

10月26日 三ヶ島小学校 6年生  
語り部：中島寿々江さん

11月12日 牛沼小学校 6年生  
語り部：中島寿々江さん

11月15日 北小学校 6年生  
語り部：岡光静乃さん

11月18日 上新井小学校 6年生  
語り部：杉本孝一郎さん

1 1月20日 所沢小学校 6年生  
語り部：中島寿々江さん

1 1月26日 若松小学校 6年生  
語り部：杉本孝一郎さん

1 1月30日 北秋津小学校 6年生  
語り部：中島寿々江さん

平成26年 1月14日 宮前小学校 4年生  
語り部：杉本孝一郎さん

合計 12回開催 参加者数 1,143人

年度	実施回数	参加者数
平成20年度	14回	1,197人
平成21年度	12回	988人
平成22年度	12回	1,369人
平成23年度	12回	1,212人
平成24年度	12回	909人
平成25年度	12回	1,143人

## 講師紹介

おかみつ しずの  
**岡光 静乃さん（市内在住）**

夫の健男さんが広島市内の勤務地から帰宅する途中、爆心地から1.6kmの観音橋の上で被爆しました。しかし、静乃さんの献身的な看病により奇跡的に死の淵から救われました。この看病の体験を通して、被爆の悲惨さ、命の大切さを訴えます。

体験をもとに執筆された著書に「オレンジ色の夏 - 八月の広島 - 」があります。

昭和20年当時、私は家族と夫の勤め先のある広島市に住んでいました。8月6日、前日宿直だった夫が朝、自転車で帰宅している途中に原爆が落とされたのです。

幸い原爆が落ちた場所から自宅は離れていましたが、本当に一瞬で何もかもめちゃめちゃになったという感じです。私は無事でしたが、夫は橋の上で被爆したため、全身火傷で姿が変わってしまったくらいひどく、生きているのがやっとという感じでした。

医者も病院もほとんどなく、ましてや広島市内は大勢の被爆者ですから、だれにも頼れる状況ではなく、自らの手で夫を看病しなければなりませんでした。それからというもの、ひたすら夫の看病に明け暮れました。物や薬がない時代でしたから、毎日大変でした。

でも、夫が歩くまでに回復したときには、言い表せないくらいうれしくて、生きていてくれてよかったと思ったものです。

夫は、翌年の昭和21年には職場へも復帰し、定年退職するまで職務をまっとうして66歳で永眠しました。



なかしま すずえ  
中島 寿々江さん

小学校6年生の時、広島市内の爆心地から500mの距離にある家（大手町）に祖母と生活していました。当時、ご両親は仕事で四国に住んでいましたが、四国が空襲の被害を受け、広島に戻ってきていました。

夏休みということで、原爆投下の数日前にたまたまご両親の住む家（3kmほど離れた大洲町）に移っていたため大事には至りませんでした。祖母や多くの親戚の方々を亡くされました。

被爆の体験をもとに当時の広島の様子や被爆当時の状況などから、戦争の悲惨さを訴えます。

今まで、被爆のことを人に話すことは避けていました。本当につらく、悲しい記憶だったものですから。しかし、私も歳を重ね多くの仲間がそうしているように、原爆の恐ろしさ、戦争の悲惨さを次世代に語り継ぐべきではないかと思うようになりました。

多くの方に原爆の話をする事、それが原爆に苦しめられた私の使命なのかもしれません。

語り部の活動を通して、話を聞いてくれた小学生の皆さんから励ましや健康を気遣うお手紙、平和に対する強い思いなどをお寄せいただき、私自身の励みとなり、これからも語り部を続けたいという確かな気持ちになりました。

すぎもと こういちろう  
**杉本 孝一郎さん（市内在住）**

戦争が激しさを増した昭和20年2月、当時13歳のとき、艦載機からの機銃掃射の中、二人の幼い妹の手をとり、雪降る中を裸足で、必死で逃げました。その年の3月10日、一夜にして10万人もの尊い生命が失われた東京大空襲で自宅も焼失してしまいました。

東京大空襲などの話を中心として、現在と当時の様子の違いを伝えながら、平和の尊さと命の大切さを訴えます。

私は、平成17年に広島平和記念式典参加事業に所沢市民の代表として参加したことが、語り部を行うきっかけでした。広島の実相を知り、私にも戦争の悲惨さを語っていく使命があると一念発起したのです。

昭和20年当時、中学1年生だった私は、連日の空襲から逃れるため東京から新潟へ疎開したので、3月10日の東京大空襲からは難を逃れましたが、自宅や友人がどうなっているのか心配でした。

父と上京したときの東京は想像を絶するものでした。上野駅に降りて見た景色は死臭ただよう焼け野原で、戦争孤児といわれる親兄弟を亡くした子どもたちもたくさんいました。食べ物はもちろんのこと何もない時代でした。

何もない時代を生きた者から言わせていただければ、今は本当に恵まれており、全てに感謝して、命を大切に、そして平和が尊いということを実感してほしいと思います。未来は、若い世代の方がつくるものですから...

# 所沢市平和祈念資料展



## 《平和祈念資料展概要》

### 【概要】

市役所及び公民館において、市所有の広島・長崎の被爆関係パネル等を展示し、戦争の悲惨さ、平和の尊さの啓発をしました。

### 【開催期間および場所】

平成25年8月 2日～8月 9日：市役所1階市民ホール

8月12日～8月19日：  
男女共同参画推進センターふらっと

8月20日～8月28日：  
小手指まちづくりセンター  
(小手指公民館)

### 【展示内容】

#### 《所沢市役所市民ホール》

- ・広島・長崎原爆写真パネル
- ・沖縄戦写真記録
- ・太平洋戦争写真パネル
- ・記録図書の見覧

#### 《その他の施設》

- ・広島・長崎原爆写真パネル



# 資料編

## 所沢市平和推進事業の歩み

- |       |        |  |
|-------|--------|--|
| 昭和59年 | 2月     | 広島市より原爆の熱線を浴びた広島市旧庁舎内の敷石が所沢市に寄贈される。                |
|       | 10月    | 市長ら一行が広島市を表敬訪問                                     |
| 昭和60年 | 8月 6日  | 市長・市議会代表らが広島平和記念式典に参列する。                           |
|       | 11月28日 | 所沢市広島原爆資料展を開催する。(中央公民館講堂)                          |
|       | 11月30日 | 市制35周年記念事業として所沢市平和講演会を開催する。                        |
| 昭和61年 | 8月 6日  | 市長・市議会・市代表らが広島平和記念式典に参列する。                         |
| 昭和62年 | 1月     | 新庁舎西口広場に広島市旧庁舎内の敷石を設置する。                           |
|       | 8月 6日  | 市長・市議会・市代表らと市民代表が広島平和記念式典に参列する。                    |
| 昭和63年 | 8月 6日  | 市長・市議会代表らが広島平和記念式典に参列する。                           |
| 平成 元年 | 8月 6日  | 助役・市議会代表らが広島平和記念式典に参列する。                           |
|       | 8月 9日  | 市長・市議会代表らが長崎平和祈念式典に参列する。                           |
| 平成 2年 | 7月 1日  | 所沢市平和都市宣言制定(告示)                                    |
|       | 8月 6日  | 助役・市議会代表らが広島平和記念式典に参列する。                           |
|       | 8月 9日  | 市代表・市議会代表らが長崎平和祈念式典に参列する。                          |
| 平成 3年 | 7月30日  | 市庁舎広告塔に懸垂幕を設置する。                                   |
|       | 8月 6日  | 市民・市議会・市代表らが広島平和記念式典に参列する。                         |
|       | 10月26日 | 第12回所沢市民フェスティバルに出展する。                              |
| 平成 9年 | 11月13日 | 所沢市平和祈念絵画展「テレジンの子供たちが描いた絵」を開催する。(市庁舎)              |
| 平成17年 | 8月25日  | 所沢市平和祈念資料展を長崎市の全面協力を得て開催する。併せて長崎市からの「語り部」講話会を開催する。 |
| 平成18年 | 8月 8日  | 平和を語る会(語り部派遣事業)を開始する。                              |
| 平成20年 | 2月28日  | 平和市長会議に加盟する。                                       |
| 平成21年 | 8月 6日  | 市長・市議会・市民代表らが広島平和記念式典に参列する。                        |
| 平成22年 | 8月 9日  | 市長が長崎平和祈念式典に参列する。                                  |

広島平和記念式典への参加については、昭和60年から毎年実施しており、平成3年から現在の市民代表とともに市議会代表、市代表にて参加する形態になる。

## 広島市旧庁舎被爆敷石について

昭和59年、当時の所沢市長が広島市との交流を深めていたことから、広島市から旧庁舎のまわりに敷きつめられてあった御影石でできた敷石が当市に恵贈されました。

所沢市では、新たな庁舎建設が始まろうとしていたことから、新しい所沢市庁舎西口玄関前の広場に「広島市旧庁舎被爆敷石」を設置いたしました。

この敷石については、市民からの要望により、毎年8月に献花・献水を行っています。

また、この敷石のモニュメントには、以下の内容が刻まれております。

この石は、広島市に原子爆弾が投下されたときに、同市庁舎前の敷石としてあったものを本市の平和への限りない願いと世界平和の祈念のため、とくに広島市の御好意により、昭和59年2月に譲り受けたものです。次の言葉とともに...

No more Hiroshima



## 平成25年度 所沢市平和推進事業のまとめ

平成26年3月発行

編集・発行 所沢市経営企画部

企画総務課（基地対策室）

所沢市並木一丁目1番地の1

電話 04 - 2998 - 9033

E-mail [a9033@city.tokorozawa.saitama.jp](mailto:a9033@city.tokorozawa.saitama.jp)

# MEMO



所沢市イメージマスコット  
トコロん